

【4班 活動前半のまとめ】

■水の学習について感じたこと

JAMSTEC 横浜研究所では、水圧の実験を自分の目で見ることによって、よく分かったし、カップヌードルをモデルに使っているのも親しみやすいし興味をひかれた。

カップは1度、縮んでしまったら、発泡スチロールの空気が入っている部屋がつぶれてしまうため、元に戻すことは不可能である。

水の科学館で1番興味をひかれたのは、真空実験だった。

真空で水は液体の状態ではいられないため（空気がないから）氷になってしまう。

そこから考えたのは、もし宇宙に生身の人間が出てしまったら、どうなるのだろうと思った。

推測では、人間の体内の血や内臓の水分がとんでいってしまいミイラみたいになってしまうのではないかと考えた。



水の科学館にて「真空実験」

■展示（制作）について

展示してあるものを実際に自分で実験することによってより理解が深まったし、やはり興味をひいた展示物全ての共通点は説明文をあまり読むことなく、自分で体験したりするものばかりだった。

すべての博物館の共通点は映像を使っていることだった。

そして、ぱっと見て分かりやすい展示の方が好感度が高く、理解もしやすく、アートな作品だと何を伝えたいか、訳が分からなくなってしまうと思った。

展示しているものの中身も見せたらいいとおもう。

未来館では説明文が小さく、映像を流す時間が長すぎると思った。

スイスの博物館のように展示物だけでなく周りの色にも気を使ってみたり、ユーモアを取り入れたほうが良い！と思う。



水の科学館にて「水面反射の図」

■感想

・それぞれの博物館は求めているものが違い、力を入れているものが違うと思った。学国の博物館は日本と違い、とても興味を持った。これからは水について知っていそうで知らないことを伝えてみたいと思う。

・今まで学んだことは違う博物館によって違う工夫があることが分かった。例えば、ある博物館では、本当の水を使って、実験をやったり、もう1つの博物館では、「アート」で今起こっていることを教えているというのもあり、いろいろと工夫があり、その人たちが伝えたいことも良くわかったと思った。

・見る側と展示を造る側の立場になって外部の展示を見たが、意外と有名な科学館でも理解しづらい展示で驚いた。出来ればスイスの科学館も見ることができたら、勉強になると思った。造る側になったとき、限られた材料で見る側に情報を伝えるのはとても難しいから工夫が必要だろうと思う。

・文字が多い展示より実験などを多用して説明が簡潔にした方がわかりやすいと思う。多言語での説明は良いと思った。

・見てきた展示の中で参考にしたいものは、一目見て何を説明したいのか分かるものが多かった。説明もシンプルなものの方が好感が持てたし、アートに近くなると自分は満足な作品でも、見る人たちにとっては満足な理解をしてもらうことが出来ないということがこれまでの学習で学ぶことが出来た。

・博物館の展示の仕方について興味を持ったことはなかった。

正直、そこにデザイン性があるとは思っていなかったからだ。しかし、ベルンの自然史博物館を見て意見が変わった。あんな面白い展示をこれからみんなで作ってあげたいと思う。(大学生サポーター)

